

## 1 法人運営事業（法人運営事業会計）

### （1）法人組織体制の充実・強化

- ① 地域福祉の推進を図る組織として、理事会、監事会、評議員会を定期的に行い、組織運営の充実を図った。

理事会 7回、評議員会 3回、監事会 2回

- ② 産業医の指導のもと、職員の健康管理やメンタルヘルスチェックを実施した。

### （2）職員研修の実施、資格の取得

- ① 職員の資質向上のため、職場内研修を実施し、自己啓発、自己研鑽を図った。

#### 職場内研修 実施状況 6回

実施日	内 容
4月7・21日	生活支援サービス構築事業の実施に向けた考え方
6月2・16日	熊本地震支援 西原村社協の支援からみえたこと
8月1・8日	人の立場にたち、その人を思いやるとは
10月26・27日	コミュニティソーシャルワーク実践者養成研修
11月25日	元気な今だから始めよう “サヨナラの準備”
2月9・21日	篠山市における地域ケア会議の現状

#### 産業医 講座状況 1回

開催日	内 容
8月25日	切らずになおす いぼ痔の治療 講師 産業医 平野 節（平野外科医院）

#### 丹波ブロック社協活動推進協議会 研修状況 2回

開催日	内 容
9月29日	簡単な脳活ゲームと手遊びの紹介 レクリエーション交流会
1月26日 2月10日	講演 知っているようで知らない社協のこと 講師 兵庫県社会福祉協議会 廣瀬 真由美

- ② 福祉委員連絡協議会との合同役職員研修会を開催した。

- ③ 社会福祉分野専門職の資格取得を促進し、専門性の向上を図った。

資格試験合格状況 介護支援専門員 1名

### （3）災害支援センターの取り組み

- ① 西紀南地区防災訓練に参画し、災害ボランティアセンターの設置訓練を行い、

関係機関との連携を図った。(1月)

- ② 被災地の復興支援のため、市民ボランティアを募り派遣を行った。

東北への災害支援市民ボランティア派遣状況 (継続) 2回

実施日	活動先	内 容	人数
8月21日 ～24日	石巻市 南三陸町	【夏休み学生企画】 避難道路及び野菜畑の除草作業 語り部による被災地視察及び防災学習会	22名
8月26日 ～27日		【西紀ジュニアボランティア企画】 被災小学校・施設への慰霊訪問 復興状況の研修と防災・減災学習会 災害公営住宅での復興応援交流会 介護保険施設でのアロママッサージ 語り部による被災地視察	28名

熊本地震へのボランティア派遣状況 3回

実施日	活動先	内 容	人数
5月5日 ～8日	益城町 西原村	災害ボランティアセンター支援活動 農業支援 (さつま芋苗の定植作業)	6名
5月25日 ～28日		ゴミ集積場の分別作業 被災家屋の家具等の撤去作業	5名
9月17日 ～20日		訪問活動による聞き取り調査 支援物資の詰め合わせ作り アスファルトの撤去や間伐材の搬出	17名

- ③ 熊本地震の復興支援のため、職員派遣を行った。4回  
西原村災害ボランティアセンターへの派遣 3名 のべ18日間  
熊本地震共同支援ネットワークへの派遣 2名 のべ16日間

- ④ 兵庫県但馬地区への除雪ボランティアの派遣 6名 1回

(4) 篠山市社会福祉法人連絡会 (ほっとかへんネット) の取り組み

- ① 篠山市内で福祉事業を展開する、市内の11社会福祉法人と連携を図り、赤い羽根共同募金への協力や地区福社会議、こども食堂への協働参画を行った。

2 ボランティア活動支援事業 (ボランティア活動支援事業会計)

(1) ボランティアセンター運営事業

① ボランティア活動支援

ア 傾聴、買い物、掃除や雪かきといった、多様化した福祉ニーズに対応するボランティアグループへの支援の充実に努めた。

イ 助成金情報の発信と、ボランティアグループ同士や障がい者とボランティアグループの交流の場づくりを行った。

② ボランティアコーディネート

ア ボランティアに関する相談対応と、依頼のコーディネートを行った。  
コーディネート件数 123件 (99件)

イ 人材バンクの登録を行い、地域や施設でのレクリエーションの指導者派遣を行った。

団体登録 10団体 (6団体)

個人登録 9名 (6名)

③ ボランティア保険の加入促進

登録団体 93団体 (102団体)

登録者数 2,423名 (2,503名)

( ) は前年度実績

(2) 養成講座の実施

新たなボランティア活動の担い手の育成と、ボランティア活動の啓発のため、養成講座を実施した。

講座状況

内 容	回 数	参加者
傾聴ボランティア講座	4回	16名
学生ボランティア養成講座	3回	112名
災害ボランティアリーダー養成講座	2回	21名
福祉体験学習サポートボランティア養成講座	2回	15名

3 ボランティア活動費補助事業 (ボランティア活動費補助事業会計)

(1) グループ活動費の助成

篠山市ボランティア連絡協議会の登録グループに、運営や活動に必要な経費助成し、地域福祉活動の主体的な参加と活動を支援した。

対象 ボランティア活動費助成団体数 29グループ

ボランティア活動費助成額 623,500 円

(2) グループ登録の推進

福祉分野に関係するボランティアグループに情報提供を行い、ボランティアネットワークの充実を図った。

対象 篠山市ボランティア連絡協議会登録グループ  
ボランティア団体 30 グループ 会員 425 名

4 集落等福祉活動事業（集落等福祉活動事業会計）

(1) ふれあい・いきいきサロン事業補助金

- ① 高齢者が気軽に集い、孤立感の解消と心身機能の維持向上を目的としたサロン活動を実施するため、市内 10 自治会を指定し、補助を行った。

実施状況 新規（1年目）

自治会名	内 容	回 数	参加者
北沢田	茶話会、世代間交流、趣味教養講座	8 回	211 名
垂水	茶話会、世代間交流、健康教室	11 回	83 名
市野々	茶話会、世代間交流、健康教室	7 回	144 名
下新田	茶話会、世代間交流、健康教室	7 回	188 名
油井	茶話会、世代間交流、健康教室	7 回	280 名

1 自治会の補助額 102,000 円

実施状況 継続（2年目）

自治会名	内 容	回 数	参加者
和田	茶話会、世代間交流、趣味教養講座	6 回	119 名
安口東	茶話会、世代間交流、健康教室	9 回	207 名
小立	茶話会、世代間交流、昼食の提供	7 回	168 名
網掛	茶話会、世代間交流、趣味教養講座	6 回	98 名
今田町休場	茶話会、世代間交流、健康教室	6 回	157 名

1 自治会の補助額 102,000 円

- ② 住民が主体的に取り組む地域福祉活動の拠点として、サロン事業が地域に定着するよう、指導と支援を行った。

実施状況

サロン実施状況	87 か所	指定自治会 67 自治会（平成 13~28 年度） その他、実施団体 20 グループ
---------	-------	---

- ③ 職員がサロン実施自治会、老人クラブ（敬老会）、高齢者教室へ出向き、福祉の話やレクリエーションの指導を行った。

実施状況

会 合 名	回 数	内 容
ふれあい・いきいきサロン	15 回	福祉講話、レクリエーション
老人クラブ（敬老会）	4 回	福祉講話、レクリエーション
高齢者教室	2 回	福祉講話、レクリエーション

5 給食サービス事業（給食サービス事業会計）

- ① ボランティアや市内障がい者福祉事業所の協力を得て、概ね 70 歳以上の一人暮らし高齢者等を対象に、弁当の手渡しによる安否確認と、見守りを兼ねた給食サービス事業を実施した。
- ② 調理ボランティアを対象に、食品の安全と安心に関する講習会を開催し、食中毒予防、食品管理及び調理時の注意点を学び、食品安全の見識を深めた。
- ③ 広報誌やパンフレットを作成し、利用促進、調理・配送ボランティア活動への参加を呼び掛けた。

実施状況

（ ）は前年度実績

年間回数	利用者数	年間食数	協力団体・委託事業所
毎週水曜日 47 回 (46 回)	71 名 (91 名)	3,184 食 (3,152 食)	調理ボランティア 配送・絵手紙ボランティア 障がい者福祉事業所（4 事業所）

利用料 450 円

6 配食サービス事業（配食サービス事業会計）

- ① 市内障がい者福祉事業所の協力を得て、概ね 65 歳以上の一人暮らし高齢者

等を対象に、弁当の手渡しによる安否確認と、見守りを兼ねた配食サービス事業を実施した。

- ② 委託先の事業所を対象に、年2回検食を行い、調理方法、分量、味付けなどを評価し、調理指導を行った。

実施状況 ( )は前年度実績

年間回数	利用者数	年間食数	委託先
毎週金曜日 47回 (50回)	47名 (52名)	2,055食 (2,283食)	NPO法人 陽だまり NPO法人 みらい NPO法人 みちくさ NPO法人 いぬいふくし村

利用料 500円 (減額利用者は350円)

## 7 外出支援サービス受託事業 (外出支援サービス受託事業会計)

- ① 身体 (車いす利用者) の状況により、公共交通機関の利用が困難な高齢者や障害者を対象に、通院手段を確保することを目的として、特殊車両による送迎を行った。
- ② 特殊車両での送迎を行うことで、車いすやストレッチャー利用者の安全確保と、介助者の負担軽減を行った。
- ③ 低所得者や遠距離通院者に、経済的な負担の軽減を図った。
- ④ 西紀北地区において、桑原と川阪間のバス停送迎を行った。
- ⑤ 安全運転を心がけるため、運転員の交通安全講習会 (篠山自動車教習所) を実施し、道路運送法における福祉有償運送制度に基づき、法令を遵守した安全な運行を行った。

運行状況 ( )は前年度実績

事業名	登録者数	送迎回数	利用料
外出支援サービス	151名 (148名)	1,337回 (1,371回)	500円/片道
西紀福祉バス	9名 (9名)	14回 (32回)	200円/片道

## 8 生活福祉資金貸付事業 (生活福祉資金貸付事業会計)

- ① 金融機関の貸付制度が利用できない低所得世帯や高齢者世帯を対象に、生活再建と更生を目的に、生活福祉資金の貸し付けを行った。
- ② 償還滞納者に対し、県社協の指針に基づき、償還指導を行った。
- ③ 貸し付けによる経済的な援助に合わせ、民生委員・児童委員と連携し、借受世帯への相談支援を行った。また、生活困窮に関する相談の際、自立相談支援機関と社協が連携し、相談援助を行った。

貸付状況 件数 ( ) は前年度実績

資金種類	28年度貸付件数	総貸付件数計
福祉資金	0件 (0件)	8件 (8件)
教育支援資金	0件 (0件)	5件 (5件)
総合支援資金	0件 (1件)	6件 (6件)
緊急小口資金	1件 (3件)	10件 (9件)
不動産担保型生活資金	0件 (0件)	0件 (0件)
臨時特例つなぎ資金	0件 (1件)	1件 (1件)
計	1件 (5件)	30件 (29件)

貸付状況 金額

資金種類	貸付額	返済額	残額
福祉資金	15,037,785円	2,789,124円	12,248,661円
教育支援資金	5,619,403円	3,076,610円	2,542,793円
総合支援資金	5,178,969円	1,858,560円	3,320,409円
緊急小口資金	702,457円	346,650円	355,807円
不動産型担保融資	0円	0円	0円
臨時特例つなぎ資金	0円	0円	0円
計	26,538,614円	8,070,944円	18,467,670円

(延滞利子含む)

総合相談件数 86件 (相談者 41名)

生活福祉資金貸付 1件

緊急貸付資金貸付 4件

緊急支援給付金 3件

## 9 権利擁護支援事業 (日常生活自立支援事業会計)

- ① 判断能力に不安のある高齢者や障がい者が、住み慣れた地域で安心して暮ら

せるように、住民や関係機関と連携を図り、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理、通帳の預かりサービスを行った。

- ② 課内支援会議や個別地域ケア会議への参加を通じ、情報共有と利用者支援の方策を検討し、多様なネットワークにより、利用者を支援した。
- ③ 判断能力の低下により、成年後見制度が必要な利用者には、篠山市高齢者・障がい者権利擁護サポートセンターと連携し、申立支援を行い、成年後見制度に繋いだ。
- ④ 権利擁護支援者養成講座（5回シリーズ）や生活支援員連絡会を開催し、身近な地域での権利擁護支援活動の担い手の育成と、活動のサポートを行った。
- ⑤ 自治会、老人クラブ、住民の集う場に出向き、事業内容の周知を行うとともに、支援を通じて住民の権利擁護意識を高めた。

福祉サービス利用援助事業 支援状況 ( ) は前年度実績

利用契約者	年間支援回数	備 考
29名 (26名)	473回 (434回)	専門員1名、担当職員4名、生活支援員8名

権利擁護支援者養成講座（5回シリーズ） 実施状況

開催日	内 容	講 師	受講者
7月11日	認知症の理解について 高齢者、障がい者の虐待について	市地域福祉課職員	12名
7月20日	介護保険制度について 障がい者福祉サービスについて	当社協職員 NPO法人ウィズ・ユー 中川 順子	11名
7月28日	コミュニケーションの方法について 解決志向アプローチの体験	カウンセリングオフィス Sola 代表 梶原 成子	14名
8月1日	精神障がいの病気の特徴とその対応 について	兵庫大学 生涯福祉学部 社会福祉学科 光田 豊茂	19名
8月18日	日常生活自立支援事業について 成年後見制度について 日常生活自立支援事業の支援内容について	当社協職員 NPO法人ウィズ・ユー 馬場 佳代 当社協職員	9名

生活支援員連絡会 実施状況

開催日	内 容	講 師	参加者
6月27日	介護保険法の改正に伴う、篠山市の新しい取り組みについて	市地域福祉課職員	7名
2月16日	研修 高齢の方への支援と施設見学	和寿園 明山 重則	8名



## 10 介護機器貸出事業（介護機器貸出事業会計）

- ① 在宅介護者を対象に、介護者の負担軽減を図るため、車いすや電動ベッドを貸し出した。
- ② 利用者宅を訪問し、貸出機器の点検を行い、利用状況の確認と介護に関する相談に応じた。

貸出状況 ( ) は前年度実績

貸出機器名	貸 出 件 数
ベッド	21件 新規3件(6件)、継続18件
マットレス	6件 新規3件(5件)、継続3件
車いす	68件 新規5件(5件)、継続15件(10件)、短期利用48件(47件)

## 11 手話・要約奉仕員養成受託事業（手話・要約奉仕員養成受託事業会計）

### (1) 奉仕員養成講座の実施

- ① 手話奉仕員の新たな支援者層を発掘するため、若い世代をターゲットに、昼間に託児を行い、講座を実施した。  
託児利用者 2名

講座状況

講座名	回数	参加者	修了者	サークル入会者
入門課程 昼間	20回	12名	9名	3名
入門課程 夜間	20回	24名	20名	10名

- ② パソコンを使って、要約筆記の技術を習得するため、講座を実施した。

講座状況

内 容	回数	参加者	修了者	サークル入会者
パソコン要約	8回	9名	4名	1名

### (2) 手話奉仕員養成講座終了後の受講者フォロー

- ① 27年度基礎講座の受講者と、本年度の入門講座受講者に、基礎講座の案内を

送付し、情報提供を行った。

12 ファミリーサポートセンター補助事業（ファミリーサポートセンター補助事業会計）

- ① 依頼会員の子どもの対象年齢を6年生まで引き上げ、ニーズにあった子育て支援を行い、利用の幅を拡大した。なかでも、共働きの増加に伴い、習い事の送迎が124件と増え、活動件数は今年の1.8倍となっている。

活動状況 ( )は前年度実績

会 員 数				活動件数	活動時間
依 頼	協 力	両 方	計		
191名 (173名)	68名 (75名)	31名 (32名)	288名 (280名)	233件 (130件)	249時間23分 (173時間37分)

- ② 依頼会員、協力会員、両方会員の増加に向け、事業の周知を図った。

ア 広報誌の発行

会報「ファミサポ号」 年4回

イ 事業説明会

1歳7か月児健診 12回 306名

パパママ教室 6回 33名

民生委員会合同研修会 1回 140名

- ③ 会員と子育て中の方を対象に、交流会を開催し、事業の周知と交流を深めた。

実施回数 6回

参加者 138名（大人68名、子供70名）

- ④ 会員養成講座とフォローアップ講習会を開催し、資質の向上に努めた。

実施回数 4回

参加者 45名

13 生活支援サービス体制整備受託事業（生活支援サービス体制整備受託事業会計）

(1) 生活支援サービス体制整備事業

- ① 生活支援コーディネーターを配置し、見守り支援サポーター事業と介護支援ボランティアポイント制度事業を加え、地域支え合い活動を推進した。

- ② 当社協コミュニティソーシャルワーカーをはじめ、各関係機関と連携し、「生活支援の担い手の養成」「地域資源調査」「関係者のネットワーク構築」の役割を担い、生活支援の提供体制整備に取り組んだ。
- ③ 生活支援コーディネーターが、地区福社会議や福祉関係会議に出席し、住民が主体となる協議体の設置に向け、取り組んだ。  
福祉関係会議 地区福社会議、駐在所（交番）との意見交換会  
民生委員児童委員協議会支部定例会
- ④ 地区福社会議で得た地域のつどい場の整理を行い、既存のふれあい・いきいきサロン実施自治会を訪問し、活動状況の確認を行った。

(2) 見守り支援サポーター事業

- ① 地域において、手助けをしてほしい人と（依頼会員）、お手伝いをしたい人（サポート会員）を会員登録し、家事の手伝いや話し相手、買い物などのサービスを実施した。
- ② 広報誌、ホームページ、パンフレットにより、事業の周知を図り、会員の増員に努めた。
- ③ 増加する依頼会員のニーズに対応するため、養成講座を開催し、活動登録者を育成した。

利用料 600 円／1 時間（300 円／30 分）

会員数 依頼会員 60 名、サポート会員 33 名

講座名 サポート会員養成講座 2 回

サポート会員研修会・交流会 2 回

(3) 介護支援ボランティアポイント制度事業

- ① 高齢者のボランティア活動の支援を目的とし、介護保険施設などでボランティア活動を行った。
- ② 65 歳以上の方にポイントを付与し、ポイント数に応じて換金を行った。
- ③ 広報誌「かわら版」を 6 回発行し、会員や協力施設へ活動に関する情報を提供した。

活動登録者 90 名（男 18 名、女 72 名）

14 赤い羽根共同募金運動（共同募金配分金事業会計）

(1) 赤い羽根共同募金運動

- ① 「地域の福祉、みんなで参加」を全国統一スローガンとして、10 月を募金推進強化月間とし、自治会長、民生委員等の協力を得て、募金活動を実施した。
- ② 企業が実施する社会貢献活動や学校の福祉教育において、地域福祉や募金運

動に関する情報を積極的に提供し、自発的な募金運動への参加を推進した。

赤い羽根共同募金 実施状況（期間 10月1日～12月31日）

募金種類	募金額	備考
戸別募金	5,095,620 円	262 自治会（準自治会等含む）
街頭募金	181,307 円	10 箇所
法人募金	1,048,300 円	235 事業所
職域募金	9,950 円	8 職場
学校募金	112,774 円	28 校
オリジナルバッジ募金	509,473 円	市・社協職員他
寄付金付商品募金	45,036 円	2 事業所
その他の募金	27,000 円	期間外募金、預金利息
計	7,029,460 円	

地区福祉事業費 配分状況

配分事業名	配分金額	備考	
給食サービス事業	1,315,444 円	老人福祉活動費	
友愛訪問事業	545,440 円		
一時預かり事業	83,139 円	児童・青年福祉活動費	
福祉教育推進事業	486,938 円		
要保護児童支援事業	123,229 円		
ボランティア活動支援事業	115,000 円		
ボランティア連絡協議会事業	355,356 円	福祉育成・援助活動費	
社会福祉大会事業	323,526 円		
福祉委員活動事業	1,035,000 円		
地区福祉会議事業	220,281 円		
ふれあい・いきいきサロン事業	73,731 円		
心配ごと相談所事業	126,700 円		
広報・調査事業	592,420 円		
民協活動費助成	274,864 円		
ひきこもり就労支援事業	209,618 円		
老人クラブ連合会事業	716,558 円		共通事業
身体障害者福祉協議会事業			
婦人共励会事業			
手をつなぐ育成会事業			
計	6,597,244 円		

(2) 友愛訪問活動事業

- ① 民生委員・児童委員の協力を得て、65歳以上の一人暮らし高齢者（1,487名）

を対象に、誕生日にプレゼントを手渡す友愛訪問を実施し、安否確認を行った。

(3) 福祉委員活動事業

- ① 身近な地域での見守りや声かけを基本に、自治会長、民生委員・児童委員や地域の皆さんと連携し、小地域福祉活動の中心的役割を担えるよう、活動を展開した。
- ② 福祉委員の資質向上を目的に、全体研修会、スキルアップ研修会を開催した。
- ③ 赤い羽根共同募金運動や歳末たすけあい運動への協力、また地区福祉会議、地域でのサロン活動を通して、地域福祉活動へ参画した。
- ④ 福祉委員通信を年3回発行し、福祉委員活動を周知した。

活動状況

事業名	内容
第1回 会長・副会長会	平成28年度、事業計画について 全体研修会について
古市地区福祉委員連絡会	古市地区での活動について
全体研修会	当社協の事業説明 介護保険法の改正についての講演 地区別懇談会
第1回 理事会	篠山市社会福祉大会での展示について
第17回 篠山市社会福祉大会	式典、講演 福祉委員スキルアップ研修会
福祉委員通信発行（第16号）	福祉委員活動の周知
第2回 会長・副会長会	第2回、理事会について
第2回 理事会	とっておきの音楽祭への協力について 共同募金運動への協力について 地域福祉リーダー研修会について
とっておきの音楽祭	前日準備
とっておきの音楽祭	ボランティア活動
第1回 広報編集委員会	福祉委員通信（第17号）について
赤い羽根共同募金（街頭募金）	城東地区市民運動会 多紀地区市民運動会
古市地区福祉委員連絡会	古市地区での活動について
赤い羽根共同募金（街頭募金）	丹南味覚まつり 今田陶器まつり
福祉委員通信発行（第17号）	福祉委員活動の周知
歳末たすけあい運動 街頭募金	募金活動への協力
地域福祉リーダー研修会	豊岡市但東地区の実践報告会

第3回 広報編集委員会	福祉委員通信（第18号）について
第3回 会長・副会長会	平成28年度、事業及び決算見込について 平成29年度、事業計画及び予算について
民児協支部長との意見交換会	民生委員・児童委員との連携に向けて
第4回 広報編集委員会	福祉委員通信（第18号）について
第3回 理事会	平成28年度、事業について
福祉委員通信発行（第18号）	福祉委員活動の周知

(4) 地区福祉会議

- ① 自治会長会や民生委員児童委員協議会、福祉委員連絡会を中心に、まちづくり協議会と連携して、地域の福祉課題を協議し、解決に向けて取り組む地区福祉会議を開催した。

開催状況

開催地区 (17地区)	篠山、畑、八上、岡野、日置、後川、福住、村雲、大芋 西紀南、西紀、西紀北、大山、味間、城南、古市、今田
参加者	自治会長171名、民生委員・児童委員98名、民生児童協力委員140名、福祉委員97名、まちづくり協議会32名、ほっとかへんネット22名、その他26名
内容	当社協からの報告 介護保険法の改正及びいきいき塾の取り組みについて 意見交換 地域で支え合える仕組みづくりについて

(5) 福祉教育推進事業

- ① 小学校、中学校、高校で、アイマスクや車いす体験学習を行うとともに、福祉学習メニューの提案を併せて行った。

講師による福祉体験学習 実施状況 (5回)

学校名	人数	内 容
岡野小学校	32名	視覚障害者の生活について 講師 辻本 一郎
八上上小学校	20名	視覚障害者の生活について 講師 辻本 一郎
城北畑小学校	32名	手話教室 講師 大内 和彦
城北畑小学校	32名	視覚障害者の生活について 講師 辻本 一郎
西紀南小学校	10名	点字教室 講師 篠山点字サークル
計	126名	

職員による福祉体験学習 実施状況 (11回)

学校名	人数	内 容
篠山小学校	19名	アイマスク体験

岡野小学校	32名	アイマスク体験
城南小学校	36名	高齢者疑似体験
篠山鳳鳴高校	149名	高齢者・知的障害者疑似体験（4回）
城北畑小学校	32名	車いす体験
今田中学校	27名	車いす体験、アイマスク体験
多紀小学校	33名	車いす体験
西紀小学校	17名	高齢者疑似体験
計	345名	

(6) 心配ごと相談所事業

- ① 地域の身近な「よろず相談所」として、市内6か所に窓口を設け、民生委員・児童委員、専任相談員（元民生委員）の2名体制で、日常生活上のあらゆる相談に応じ、適切な助言や援助を行った。また、法的分野、専門知識を要する相談は、専門機関と連携し、課題を解決した。

実施状況

実施日	場所	日数	件数
毎月の第1、3、5金曜日	丹南健康福祉センター	27日	4件
毎月の第2、4金曜日	篠山市民センター	23日	11件
4、12月の第3木曜日	城東公民館	3日	0件
5、9、1月の第4木曜日	ハートピアセンター	2日	1件
6、10、2月の第1木曜日	西紀支所	3日	0件
7、11、3月の第1水曜日	今田まちづくりセンター	3日	0件
計		61日	16件

(7) 広報・調査研究活動

- ① 社協活動の紹介と、福祉に関する情報発信の手段として、全世帯に広報誌を年6回発行した。また、会費納入時には、社協活動パンフレットを発行し、住民や関係機関に、福祉への理解と協力を求めた。

(8) 社会福祉大会

- ① 「誰もがいきいきと暮らせるまちをつくろう！」をテーマに、住民同士の助け合いを認識し、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりについて、問題提起を行った。

実施状況

開催日	内 容	参加者
-----	-----	-----

7月2日	地域福祉功労団体表彰 講演 一人ひとりの“できる”で支え合う地域づくり 講師 ご近所福祉クリエイター 酒井 保	321名
------	---	------

(9) 子ども一時預かり事業

- ① 子育て中の保護者の負担を一時的に解消し支援するため、ファミリーサポートセンター協力会員が託児協力者となり、子ども一時預かり事業を実施した。

実施状況

実施回数	申込数（保護者）	預かり数（子ども）	協力会員数
16回	39名	46名	29名

(10) 社会的ひきこもり就労支援事業報告

- ① 社会復帰に向けたきっかけづくりとして、喫茶ふれあいで就労支援を行った。

実施期間 11月～3月

対象者 ひきこもり就労者 22名

内容 喫茶ふれあいでの就労（就労日数 77日、1日2時間）  
大芋にちよう市に出店し、自家製スイーツを販売（就労日数 8日）

(11) 要保護児童への支援事業（ささっこ食堂）

- ① 社会的弱者の子どもの居場所づくりとして、各関係機関、ボランティアの協力を得て、学習支援を含めた子ども食堂を実施した。

実施期間 4日間

参加者 園児、小学生、中学生（6世帯 のべ46名）

支援者 一般ボランティア、高校生、大学生（のべ24名）

(12) 福祉団体支援事業

- ① 篠山市老人クラブ連合会（6支部、会員 5,470名）

- ・老人クラブは、地域を基盤とする高齢者自身の自主的な活動組織であり、多年にわたり培ってきた知識や経験を生かし、「健康・友愛・奉仕」の三大運動を掲げ、地域の特色を活かした様々な活動を展開した。
- ・各研修会や大会へ参加し、高齢者の立場から提言を行い、リーダーの養成、事務局体制の整備を行い、老人クラブの活性化を図った。
- ・会員の増員を推進するため、広報誌を年2回発行した。

- ② 身体障害者福祉協議会（会員 297名）

- ・会員自らが事業を企画、立案する自主的な組織として、社会参加の促進、自立支援に関する事業と研修会を開催し、障がい者の自立と支援を行った。関係機関と連携し、障がい者に関する福祉制度やサービスを周知す



るため、広報活動を行った。

③ 婦人共励会（会員 44 名）

- ・母子・寡婦・父子家庭の自立促進と福祉の向上を目的に、研修会や他市との交流会などを開催し、生活基盤の安定と児童の健全な育成を支援した。
- ・各家庭に必要な制度を効果的に活用できるよう関係機関と連携し、必要な情報を提供した。

④ 手をつなぐ育成会（会員 100 名）

- ・知的な障がいのある人とその保護者、協力者で構成され「どこに住み、働き、誰が支えるのか」をキーワードに、地域生活支援事業に取り組んだ。
- ・会員からの身近な相談をはじめ、関係機関との連携を進めながら、その人に合った生活を支援することを目的に、情報発信や会員からの福祉ニーズの把握に努めた。

(13) 歳末たすけあい運動

- ・12月を歳末たすけあい運動月間とし、「つながり ささえあう みんなの地域づくり」をスローガンに、自治会長や各関係機関の協力を得て、募金活動を実施した。
- ・寄せられた募金は、新たな年を迎えるにあたり、誰もが安心して地域で暮らせることをめざし、地域のたすけあいや支え合いを目的とした活動に配分した。
- ・配分事業は、民生委員児童委員協議会、福祉委員連絡会、社会福祉事業所等、地域で福祉活動を行う団体の協力を得て実施した。

歳末たすけあい運動 実施状況（期間 12月1日～31日）

募 金 種 類	募 金 額	備 考
戸別募金	3,129,502 円	272 自治会
街頭募金	37,365 円	4 か所
法人・団体募金	206,872 円	8 団体
職域募金	1,784 円	7 職場
個人募金	20,000 円	2 個人
その他募金	194,360 円	前年度繰越金、利息他
計	3,589,883 円	

歳末たすけあい運動 配分状況

配 分 事 業 名	配 分 金	備 考
地域歳末ふれあい交流事業	1,578,660 円	@7,500 円×1 団体 @15,000 円×1 団体

		@18,500 円×1 団体 @20,000 円×1 団体 @21,780 円×1 団体 @21,880 円×1 団体 @24,000 円×1 団体 @25,000 円×58 団体
一人暮らし高齢者友愛訪問事業	970,450 円	@650 円×1,493 名
障がい者福祉事業所支援事業	320,000 円	@10,000 円×20 事業所 @30,000 円×4 事業所
短期里親配分事業	122,000 円	@1,000 円×7 名 @15,000 円×7 名 @10,000 円×1 団体
小計	2,991,110 円	

事務費	161,991 円	
地区福祉事業配分金充当金	300,000 円	
次期繰越金	136,782 円	
小計	598,773 円	
計	3,589,883 円	

物品内訳	もち米 (60 kg)、砂糖 (10 kg)、タオル (1,015 枚)、洗剤 (18 個)、石鹸 (200 個)、日用品
物品配分先	障がい者福祉事業所

## 15 緊急貸付資金事業（緊急貸付資金事業会計）

### （1）緊急貸付資金事業

- ① 金融機関の貸付制度が利用できない方を対象に、緊急かつ一時的に資金が必要な方に対し、貸し付けを行った。

貸付状況	件数	（ ）は前年度実績	
新規貸付件数	返済完了件数	返済免除数	貸付総件数
4 件（6 件）	4 件（7 件）	1 件（1 件）	20 件（20 件）

- ② 市地域福祉課が行う生活困窮に関する相談に、必要に応じて当社協も同席した。

(2) 緊急支援給付金事業

- ① 公的な支援を受けることが困難で、緊急かつやむなく資金が必要な方に、現金給付、または現物給付を行った。

現金給付 3件(1件) ( )は前年度実績

現物給付 3件(1件)

16 善意銀行運営事業(善意銀行運営事業会計)

- ① 住民より金品の預託を受け、預託者の意志に基づき、地域福祉事業や在宅福祉事業の財源として払い出しを行い、支え合える地域社会と社会奉仕の精神を育んだ。

金銭預託 件数 70件(73件) ( )内は前年度実績

金額 1,475,852円(1,436,462円)

物品預託 件数 45件(70件)

17 訪問介護サービス事業(訪問介護サービス事業会計)

障害者総合支援事業(障害者総合支援事業会計)

- ① 介護保険制度、障害者総合支援制度を利用して、誰もが住みなれた地域で安心して生活できるよう、ホームヘルパーを派遣した。

利用状況 ( )内は前年度実績

事業名	利用者	のべ利用者	のべ派遣時間
訪問介護サービス	89名 (96名)	1,061名 (1,226名)	10,452時間 (10,783時間)
障害者総合支援	37名 (35名)	383名 (364名)	5,198時間 (6,203時間)
自費ヘルパー	11名 (8名)	48名 (39名)	—

- ② 平成29年4月から施行される介護予防、日常生活支援総合事業に向けて職員の知識を高める研修会を実施した。

- ③ 居宅介護支援事業所や地域包括支援センターと連携し、質の高いサービスを提供した。

## 18 相談支援事業（相談支援事業会計）

- ① 障害者相談支援専門員を専任配置し、様々な相談に適切に応じた。
- ② 専門員の資質向上を目的に、研修会に参加し、利用者にとってより良い生活ができるように支援した。
- ③ 利用者や家族からの相談に応じ、自立した日常生活を支援するため、福祉サービス事業所との連絡・調整を行い、サービス等利用計画を作成した。  
ケアプラン作成数 45件（44件）（ ）内は前年度実績
- ④ 不足する社会資源の情報をまとめ、相談支援部会や障害者サービス調整会議で、社会資源の整備を提言した。

## 19 居宅介護支援公益事業（居宅介護支援会計）

- ① 要支援・要介護状態にある利用者の心身の状況や、環境等に応じたニーズを把握し、多様なサービスをフォーマル、インフォーマルにとらわれず、総合的に提案し、利用者が在宅生活における生活目標を実現するため、居宅サービス計画（ケアプラン）の作成を行った。  
介護保険ケアプラン作成 126件（130件）  
介護予防ケアプラン作成 8件（8件）
- ② 市地域福祉課から受託している要介護認定等訪問調査を行った。  
年間調査件数 62件（56件）
- ③ 特定事業所として、質の高いケアマネジメントを提供した。
- ・担当ケースの伝達を目的としたミーティングを週1回開催し、解決できない困難事例は、地域包括支援センターと連携し、解決に努めた。
  - ・24時間連絡体制をとり、必要時に相談に応じた。  
年間件数 137件（154件）
  - ・市地域福祉課や当地域包括支援センターが主催する主任介護支援専門員連絡会、多職種連携会議、介護支援専門員座談会に参加し、専門職と意見交換を行った。
  - ・地区福祉会議や民生委員との交流会に参加し、福祉関係者との連携を強化した。

( ) 内は前年度実績

## 20 地域包括支援センター公益事業（地域包括支援センター会計）

### (1) 東部・西部地域包括支援センター

#### ① 介護予防ケアマネジメント業務

ア 「いきいきデカボー体操リニューアル版」を活用し、当社協・市健康課と協働して、ふれあい・いきいきサロン活動や、健康増進等の生きがいづくりに、働きかけを行った。また、自治会単位で立ち上がった「いきいき倶楽部」に対して、当地域包括支援センターの啓発、参加されている方の状態把握及び倶楽部の活動支援のために参加した。

	参加地域	新規立上地域	実施地域（左記含む）
東部	5 か所	5 か所	15 か所
西部	3 か所	3 か所	9 か所

イ 老人クラブやふれあい・いきいきサロンの健康教育への要請に応じ、健康寿命の啓発のみならず、認知症の理解促進やボランティア活動への人材発掘を意識して啓発した。

東部 19回、西部 13回

ウ 介護予防・日常生活総合事業（総合事業）への移行を意識し、自治会単位の「いきいき倶楽部」、まちづくり協議会単位の「地区いきいき塾」の立ち上げの中心となるリーダー養成を目的に、「お試しクラブ」の紹介に努めた。

#### ② 総合相談支援業務

ア 総合事業への移行に向け、当地域包括支援センター、当社協、市地域福祉課と協働して、具体的な対策について協議し、仕組みを考える会議に、積極的に参加した。

イ 月1回以上、3職種（社会福祉士、主任介護支援専門員、保健師）で打ち合わせ会議を行い、サポートリストからモニタリングを実施し、支援の遅滞がないように取り組んだ。

ウ 関係機関の会議、ふれあい・いきいきサロンや住民の集う場で、高齢者の相談窓口として、地域包括支援センターの周知啓発に努めた。

エ 相談支援の流れを身に付け、職員のスキルを上げる取り組みとして、職員が支援ニーズのアセスメント力や、業務について自己評価を実施した。

#### ③ 権利擁護業務

- ア 高齢者虐待の早期発見と予防、成年後見制度の利用促進に向け、市地域福祉課（高齢者・障がい者権利擁護サポートセンター）と連携を強化し、月1回モニタリング会議に参加した。また、後見人制度の周知啓発に努めた。
  - イ 消費者被害の早期発見と予防に向け、地域住民へ周知を図った。また、市市民協働課（消費生活センター）との連携として、市保健福祉部（ふくし総合相談窓口）を通じて、市市民協働課（消費生活センター）へ、相談事例の情報を発信した。
- ④ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務
- ア 地域づくりや総合事業に向け、当社協が行う地区福祉会議への参加や、コミュニティソーシャルワーカーや生活支援コーディネーターと連携し、地域課題の発見や地域資源のアンケート調査に協力した。
  - イ 民生委員児童委員とケアマネジャーの交流会を開催し、緊急時や災害時を含む見守りや声かけ、支援体制の構築につなげた。（各6支部、年1回）
  - ウ 主任介護支援専門員連絡会で事例検討を行い、アセスメント力や対応力の向上、支援者支援の方法を習得し、支援力や実践力の向上に努めた。（年6回開催）
  - エ 地域ケア会議を通じて把握した地域課題について、主任介護支援専門員連絡会で、解決する方法を検討した。また、社会資源の開発や地域づくりを目指すため、市内の全ケアマネジャーを対象に、既存の社会資源の情報や、「あったらいいな」と思うサービスについて、情報収集する働きかけを行った。
  - オ 「けあまネット」を開催し、顔の見える関係づくりを継続した。本年度は新たに市内の主任介護支援専門員が、司会やファシリテーターを担い、ケアマネジャー間のネットワークの強化に取り組んだ。（月1回、東・西交互で開催）
  - カ 「若葉まねっと」を開催し、経験の少ないケアマネジャーの困りごとや悩みを知り、支える方法を一緒に考え、実践力の向上に働きかけた。（年4回）
- ⑤ 地域ケア会議の開催
- ア 地域ケア会議や地区福祉会議をきっかけに、専門職と地域の方との顔の見える関係づくりを継続し、既存組織や地域とのつながりを深めた。
  - イ 地域包括ケアシステム構築に向け、個別の支援ニーズをもとに、個別地域ケア会議を開催した。また、個別課題から地域課題を分析し、地域課題分析会議を開催した。（年3回）
- 個別地域ケア会議 東部 13回、西部 11回
- ⑥ 認知症対策事業
- ア 市地域福祉課（ささやま認知症支援チーム）の一員として、認知症が疑われるが、支援につながっていない人への働きかけを行い、保健師を中心に、タイムリーに支援が行えるよう、市地域福祉課（もの忘れ相談センター）と支援の流れ（フローチャート）を整理しながら作成した。
  - イ 認知症の人や介護者への相談支援の窓口や、事業の情報提供を可視化（＝

見える化) できるよう、認知症ガイドブックの作成に協力した。また、認知症介護者のつどい「ゆうゆう」の開催など、市地域福祉課と協働して行う事業に参加した。

- ウ 認知症当事者や家族を支援し、共存生活への理解を深めるため、住民や施設主体の「認知症カフェ」の立ち上げに向け、啓発活動を継続して行った。

	立上支援	(内) 新規立上支援	実施 (左記含む)
認知症カフェ	3 か所	1 か所	2 か所

⑦ 在宅医療と介護の連携推進事業

- ア 重度者や入退院を繰り返す医療支援の必要なケースや、スムーズな退院連携の仕組みを強化するため、丹波圏域の退院調整ルールを作成を行い、地域包括ケアシステム構築を目指した。
- イ 医療・介護・福祉関係の他職種のネットワークの構築と、課題抽出にむけ、「この指と一まれ」を開催した(年3回)。また、市地域福祉課主催の在宅医療介護連携推進協議会へ参加し、「つながり手帳」の作成や、課題の提言につなげた。

(2) 東部・西部指定介護予防支援業務

① 介護予防ケアプラン作成業務

- ア 介護予防ケアプラン作成中のサービス内容を確認・評価し、総合事業への移行可能な対象者を自立支援型ケアマネジメント会議に提出し、順次移行に向けて利用者に説明し、理解への働きかけを行った。
- イ 総合事業移行に伴う介護予防ケアマネジメント作成業務に向け、介護予防ケアマネジメントマニュアル作成や、基本チェックリストの考え方を市担当課と検討した。

21 喫茶ふれあい収益事業

- ① 丹南健康福祉センター利用者や地域住民の憩いの場として、気軽に利用できる喫茶の運営に努めた。
- ② 人気メニューの日替わりランチを中心に提供し、センター周辺の集客と各団体の利用者を増やした。  
1日の平均利用者数 30名(23名) ( )は前年度実績
- ③ 新たに社会的ひきこもり就労支援事業、要保護児童への支援事業(ささっこ食堂)を実施し、社会福祉事業の推進を図った。